

リバースコート取扱説明書別冊

様々な素材にリバースコートを塗る場合の下地処理

▼下地処理（既存のクロスを剥がしてから塗る場合）

< 注意 >

- 古いクロスを剥がす際は表面のビニール層の部分を剥がします。深く剥がしすぎて下地を傷めないようにご注意ください。
- 剥がれにくい場合は無理に剥がさずそのまま塗布してください。
- 剥がしてから塗るのが望ましいですが、あまりにも年数が経過している場合などは無理に剥がすと壁面が汚くなってしまう場合がありますので、状況によってご判断ください。

< 施工手順 >

- ① 剥がした部分と裏紙が残った部分の段差を平滑にします。
パテベラで段差の部分にのみパテを入れ、段差を埋めるように薄く伸ばします。余分なパテはパテベラで取り除きます。
- ② パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ③ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。
パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ④ リバーシーラーを1回塗布してよく乾燥させます。



①



②



③



④



⑤

▼下地処理（クロスを剥がさずに上からそのまま塗る場合）

クロスがしっかりと付いている平坦な壁面であれば、剥がさずにそのまま塗布いただけます。ただし、クロスの表面によって下地処理が変わります。

【住宅で使われる、表面に多少凹凸のあるクロスの場合】

塗布面を軽く清掃いただければ、そのまま塗布いただけます。シーラー処理は不要です。

【店舗などで使われる、表面に凹凸が少なくつるつるしたクロスの場合】

リバースコートが定着しにくい場合がありますので、リバーシーラーで下地処理をしてから塗布してください。

<注意>

いずれの場合も、剥がれ・めくれ・段差のある箇所は、接着やパテによる下地調整をお願いしております。パテ処理をされた箇所にはシーラーが必要です。

<施工手順>

- ① クロス表面に付着したホコリ・ヤニ等の汚れを丁寧に落としてください。
水1ℓに対してリフレパウダー1～2gを溶かした水での拭き掃除がおすすめです。
- ② 継ぎ目などに剥がれがある場合は事前に接着します。
- ③ 段差などがある場合はパテで平らにしておきます。
- ④ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ⑤ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ⑥ パテ処理をした箇所に、リバーシーラーを1回塗布し、よく乾燥させます。



①



②



③



④



⑤



⑥

▼下地処理（コンクリート・モルタル面）

< 施工手順 >

- ① 施工面がヤニやホコリ等で汚れている場合は、水で濡らして固く絞ったタオル等で拭き取ってください。汚れが落ちにくい場合は、水 1ℓ に対してリフレパウダー 1～2g を溶かした水で拭き取ってください。
- ② コンクリート・モルタル面にリバーシーラーを 2 度塗りします。
- ③ リバーシーラー乾燥後、水性シールパテ（シーラー・パテ両方の効果）で段差や凹凸のある部分にパテ処理をして壁面を平らにします。
※水性シールパテ、または同等のパテをご使用ください。
- ④ パテが完全に乾いたら一度紙ヤスリをかけ、さらにもう 1 回パテを塗ります。
- ⑤ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面ができるまでパテ塗り→ヤスリがけを繰り返します。
- ⑥ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。
パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

▼下地処理（ベニヤ板・木下地）**< 施工手順 >**

- ① 施工面がヤニやホコリ等で汚れている場合は、水で濡らして固く絞ったタオル等で拭き取ってください。汚れが落ちにくい場合は、水 1ℓ に対してリフレパウダー 1～2g を溶かした水で拭き取ってください。
- ② つなぎ目やクギ頭（ビス頭）などはあらかじめ締めておきます。
- ③ 施工後のひび割れを防止するため、継ぎ目にメッシュのファイバーテープを貼ります。
- ④ 凹凸や段差がある場合はパテで平滑な面を作り、パテ乾燥後に紙ヤスリをあてて更に平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面ができるまでパテ塗り→ヤスリがけを繰り返します。
- ⑤ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。
パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ⑥ **木材のアク止め処理をします。** リバーシーラーを 2 回塗布してよく乾燥させてください。
処理を怠るとリバーコート塗布後に木部からアクが出て茶色に変色する場合があります。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

▼下地処理（漆喰壁）

<注意>

- 壁を触っても簡単に剥がれ落ちないようなら、剥がさずにそのまま下地処理を行ってください。
- ポロポロと簡単に剥がれ落ちる場合は、ヘラ等で表面を掻き落とす必要がある場合もあります。掻き落とした後、砂やホコリは固く絞ったタオル等できれいに拭き取ってください。

<施工手順>

- ① 施工面がヤニやホコリ等で汚れている場合は、水で濡らして固く絞ったタオル等で拭き取ってください。汚れが落ちにくい場合は、水1ℓに対してリフレパウダー1～2gを溶かした水で拭き取ってください。
- ② 全体にリバーシーラーを2度塗りして表面を固めます。
- ③ リバーシーラー乾燥後、水性シールパテ（シーラー・パテ両方の効果）で段差や凹凸のある部分にパテ処理をして壁面を平らにします。
※水性シールパテ、または同等のパテをご使用ください。
- ④ パテが完全に乾いたら一度紙ヤスリをかけ、更にもう1回パテを塗ります。
- ⑤ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ⑥ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

▼下地処理（金属・ガラス・プラスチック面）

< 施工手順 >

- ① 水1ℓに対してリフレパウダー1～2gを溶かした水を使い、固く絞ったタオル等で汚れを落としてください。
- ② 壁面に、非吸水下地への接着を良くするための「捨て糊」を2回塗ります。
1回目が乾燥したら2回目を塗ってください。
- ③ よく乾かします。
- ④ 乾燥したら、80番程度の紙ヤスリで表面を軽くこすります。
軽く傷がつく程度にこすることで、リバーコートの食いつきを良くします。
- ⑤ 紙ヤスリで削った際に出た粉を取り除きます。濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き取ってください。粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。



①



②



③



④



⑤



⑥

▼下地処理（化粧合板・プリント合板下地）

< 施工手順 >

- ① 施工面がヤニやホコリ等で汚れている場合は、水で濡らして固く絞ったタオル等で拭き取ってください。汚れが落ちにくい場合は、水 1ℓ に対してリフレパウダー 1～2g を溶かした水で拭き取ってください。
- ② つなぎ目やクギ頭（ビス頭）等はあらかじめ締めておきます。
- ③ 40 番～60 番程度の紙ヤスリでこすり、表面をザラザラにしてください。
壁面がツルツルした状態のままでは塗布できません。作業後は固く絞ったタオル等で、削った粉をよく取り除いてください。
- ④ 施工後のひび割れ防止のため、継ぎ目にメッシュのファイバーテープを貼ります。
ファイバーテープを貼る前に先にプライマーを塗ると剥がれ防止効果が上がります。
- ⑤ 凹凸や段差がある場合はパテで平滑な面を作り、パテ乾燥後に紙ヤスリをあてて更に平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面ができるまでパテ塗り→ヤスリがけを繰り返します。
- ⑥ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ⑦ リバーシーラーを 1 回塗布してよく乾燥させます。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

▼下地処理（砂壁・じゅらく壁）

<注意>

- 壁を触っても簡単に剥がれ落ちないようなら、剥がさずにそのまま下地処理を行ってください。
- ポロポロと簡単に剥がれ落ちる場合は、ヘラ等で表面を掻き落とす必要がある場合もあります。掻き落とした後、砂やホコリは固く絞ったタオル等できれいに拭き取ってください。

<施工手順>

- ① 全面にリバーシーラーを2度塗りします。
- ② リバーシーラー乾燥後、水性シールパテ（シーラー・パテ両方の効果）で段差や凹凸のある部分にパテ処理をして壁面を平らにします。
※水性シールパテ、または同等のパテをご使用ください。
- ③ パテが完全に乾いたら一度紙ヤスリをかけ、更にもう1回パテを塗ります。
- ④ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面ができるまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ⑤ 平滑な面ができたら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ⑥ リバーシーラーを1回塗布してよく乾燥させます。



①



②



③



④



⑤



⑥

▼下地処理（タイル張りの壁）

<注意>

- 部分的にタイルの浮きがないかを確認し、浮いている場所を取ってください。
- タイル面が汚れている場合は、水 1ℓ に対してリフレパウダー1～2g を溶かした水できれいにしてください。
- **キッチンのコンロ前の壁、浴室等の常に水がかかる場所のタイルには塗布できません。**

<施工手順>

- ① タイル目地の段差を埋めるように水性シールパテで平滑な面を作ります。
※水性シールパテ、または同等のパテをご使用ください。
- ② パテが完全に乾いたら一度紙ヤスリをかけ、更にもう 1 回パテを塗ります。
- ③ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ④ 平滑な面ができたら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ⑤ リバーシーラーを 1 回塗布してよく乾燥させます。



①



②



③



④



⑤



⑥

▼下地処理（ジプトーン天井）

< 施工手順 >

- ① 施工面がヤニやホコリ等で汚れている場合は、水で濡らして固く絞ったタオル等で拭き取ってください。汚れが落ちにくい場合は、水 1ℓ に対してリフレパウダー 1～2g を溶かした水で拭き取ってください。
- ② つなぎ目やクギ頭（ビス頭）等はあらかじめ締めておきます。
- ③ リバーシーラーを 1 回塗布し、よく乾燥させます。
- ④ リバーシーラー乾燥後、水性シールパテ（シーラー・パテ両方の効果）で段差や凹凸のある部分にパテ処理をして壁面を平らにします。
※水性シールパテ、または同等のパテをご使用ください。
- ⑤ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ⑥ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ⑦ 2 回目のリバーシーラーを塗布し、よく乾燥させます。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

▼下地処理（繊維壁・綿壁） ※ある程度接着状態を保っている場合

< 施工手順 >

- ① 施工面がヤニやホコリ等で汚れている場合は、水で濡らして固く絞ったタオル等で拭き取ってください。汚れが落ちにくい場合は、水 1ℓ に対してリフレパウダー 1～2g を溶かした水で拭き取ってください。
- ② 柱や壁などを養生してから、噴霧器でリバーシーラーを 2 回噴霧してよく乾燥させます。1 回目が乾いた後に 2 回目を噴霧してください。
- ③ リバーシーラー乾燥後、捨て糊をローラーで塗布します。この作業により接着力を確保し、アクの流出を防止します。
- ④ 捨て糊乾燥後、水性シールパテ（シーラー・パテ両方の効果）で段差や凹凸のある部分にパテ処理をして壁面を平らにします。
※水性シールパテ、または同等のパテをご使用ください。
- ⑤ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ⑥ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ⑦ 3 回目のリバーシーラーを塗布し、よく乾燥させます。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

▼下地処理（繊維壁・綿壁） ※触るとすぐに剥がれる場合

<注意>

- 柱や壁などを養生し、水 1ℓ に対してリフレパウダー 1～2g を溶かした水を壁面にたっぷりと噴霧して剥がれやすくした後、ヘラ等で表面を掻き落とします。掻き落とした後、砂やホコリなどは固く絞ったタオル等できれいに拭き取ってください。
- 下地の痛みがひどい場合や基礎が土壁の場合などは、下記の方法のほか、既存の壁に薄いベニヤ板を張ってから塗布する方法もあります。
※ベニヤ板への塗布方法は P.10 をご覧ください。

<施工手順>

- ① リバーシーラーを 1 回塗布してよく乾燥させます。
- ② リバーシーラー乾燥後、捨て糊をローラーで塗布します。
この作業により接着力を確保し、アクの流出を防止します。
- ③ 捨て糊乾燥後、水性シールパテ（シーラー・パテ両方の効果）で段差や凹凸のある部分にパテ処理をして壁面を平らにします。
※水性シールパテ、または同等のパテをご使用ください。
- ④ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ⑤ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。
- ⑥ リバーシーラーを塗布し、よく乾燥させます。



①



②



③



④



⑤



⑥

▼下地処理（ペンキ壁・塗装壁）**< 施工手順 >**

- ① 施工面がヤニやホコリ等で汚れている場合は、水で濡らして固く絞ったタオル等で拭き取ってください。汚れが落ちにくい場合は、水 1ℓ に対してリフレパウダー 1～2g を溶かした水で拭き取ってください。
- ② 剥がれそうな部分は、40 番～60 番程度の紙ヤスリであらかじめ落としておきます。
この作業を行うことでリバーコートの食いつきが良くなります。
- ③ 水性シールパテ（シーラー・パテ両方の効果）で段差や凹凸のある部分にパテ処理をして壁面を平らにします。
※水性シールパテ、または同等のパテをご使用ください。
- ④ パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。
作業後、まだ段差がある場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返します。
- ⑤ 平滑な面ができたなら、濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き、パテの粉を取り除きます。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。



①



②



③



④



⑤



⑥



株式会社リバースジャパン

〒956-0812 新潟県新潟市秋葉区中新田 357

TEL.0250-47-6071 FAX.0250-24-0181 <https://www.rebirth-j.com>